

評価機構

2017

1

月号

NEWS LETTER

特集

イスクワ

第33回国際医療の質学会 (ISQua) 国際学術総会 開催報告

平成29年 年頭のご挨拶

Topics

Information



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

平成29年 年頭のご挨拶



公益財団法人 日本医療機能評価機構
代表理事 理事長 河北 博文

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては平素より当機構事業に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、昨年10月には、第33回国際医療の質学会（International Society for Quality in Health Care: ISQua^{イスクワ}）学術総会を日本で初めて開催いたしました。国内からの参加者約160名を含め世界70カ国から1,200名の方々が参加され、「未来への挑戦：良質な医療を求めて 更なる変革と持続可能性」を主題に、活発な議論を通じて内在する課題を発見、共有することができました。これもひとえに皆様方のご支援・ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

現在、当機構では、病院機能評価事業を始め、認定病院患者安全推進事業、産科医療補償制度運営事業、EBM医療情報事業、医療事故情報収集等事業、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業を実施しております。これらは、患者・家族、医療提供者等すべての関係者と信頼関係を築き、協働すること、どこにも偏らず公正さを保つことなど、当機構の5つの価値に基づいて、医療の質・安全の向上を支援することを目的に行っているものです。

私どもは、このような総合力により、まだ対応できていない対象や領域、あるいは目先の課題だけでなく将来を見据えた課題についても医療機関を支援できる評価機構でありたいと考え、限られた運営資源の中ではありますが、必要性、重要性、緊急性の高いものから優先順位をつけて取り組んでまいります。さらに、病院機能評価事業では、ガバナンス（統治手法）の評価を強化する次期評価体系の運用開始予定を平成30年4月とし、鋭意準備を進めるほか、他の事業においても医療の質の向上、安全の継続的な確保になお一層の努力を積み重ねてまいり所存です。本年も引き続きご支援、ご高配を賜りたく何とぞよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご盛栄を心より祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

第33回国際医療の質学会 (ISQua) 国際学術総会 開催報告

執行理事 今中 雄一、 総務部国際課 横山 玲、山野 友子

1. ISQuaとは；国際学術総会概要

国際医療の質学会ISQua (International Society for Quality in Health Care) は、世界規模で医療の質・安全の継続的な向上を支援し発展させることを目的として1985年に設立された国際学会です。ISQuaの主な事業は、①医療機関等の第三者評価機関の国際認定プログラム (International Accreditation Programme: IAP)、②国際学術総会、③フェローシッププログラムです。当機構は2013年に①のIAPを受審し、評価項目および運営組織に関する認定を取得しました。

第33回となる2016年の国際学術総会は、昨年10月16日(日)～19日(水)に東京国際フォーラムを会場として日本で初めて開催されました。世界約70カ国から医療の質・安全に関する研究者、医療者約1,200名が参加し、最新の取り組みの成果発表や意見交換が行われました。日本からも例年を大きく上回る約160名の方にご参加いただき、日本における医療の質・安全の向上の取り組みを国内外にアピールする機会となりました。

また、10月17日(月)の開会式には、厚生労働省・塩崎恭久大臣(椎葉茂樹審議官代読)、日本医師会・横倉義武会長にご挨拶を頂戴したほか、八芳園で開催されたネットワーキング・レセプション(懇親会)では、小池百合子東京都知事にご挨拶をいただきました。特に、東京都からは、国際会議の誘致・開催支援活動として、会場周辺の道路へのバナーフラッグ掲出、空港でのインフォメーションサービスのほか、日本文化体験プログラムや都内観光の実施など、多大なご支援をいただきました。医療界だけでなく、開催自治体を含めて医療の質・安全の向上に取り組んでいく姿勢を海外の方に示すことができたのではないかと思います。改めて御礼申し上げます。



2016年第33回ISQua国際学術総会 バナー

2. 基調講演の紹介

今回の国際学術総会の写真および抄録は以下のリンクからご覧いただけます（英語、<http://www.isqua.org/Events/about-tokyo>）。ここでは、基調講演の概要をご紹介します。

① 投影資料データ（パスワード：ISQua_SMF）

② 写真データ（Flickr）

③ 基調講演等動画（パスワード：ISQua_SMF）

④ プログラム・抄録 PDF リンク



(1) “Can We Improve Quality Improvement?”

「質向上の取り組みを向上させることは可能か」

ケンブリッジ大学医学部 公衆衛生・プライマリケア学科教授 Mary Dixon-Woods氏

これまで行われてきた医療の質向上の取り組みが期待されたほどの効果をあげていないと指摘し、医療の質向上の取り組みの効果を継続的に評価することの重要性が述べられました。質向上の取り組みはしばしば『魔法の杖』のように思われがちですが、すべての課題を解決できる『魔法の杖』は存在しないだけでなく、非効率な「改善活動」によって、10～12%の無駄な作業時間が発生しているという研究結果もあるため、日々行っている取り組みが医療の質向上に本当に必要なかを検証し、その意味や意義を正しく理解したうえで、適切に実施することが今後の医療の質向上に必要であることを強調して話されました。



(2) “Hospital Experiences: Health, Spirituality, and Life: A Patient’s Point of View”

「病院での経験；健康、精神、そして生命：ある患者の視点から」

NPO法人トリオ・ジャパン会長 野村 祐之氏

臓器移植を2回受けた患者としてのご自身の経験を踏まえてお話しされました。病院と刑務所の対比、ギリシャ語、中国語（漢字）の「命」という語の語源の比較などから、単に身体的な意味での治療や生存期間の長さにとどまらず、命の深さ、豊かさ、精神的な側面を含めた質の高い医療、よりよい医療とは何か、という大きな課題にアプローチする、とても印象的な講演でした。



(3) “Japan’s Quality Improvement Body – Its Achievement and Future Role in Public Healthcare Service as Private Sector Entity”

「日本における質改善の土台 - 民間団体としての公的医療サービスにおける実績と今後の役割」

評価機構執行理事、九州大学教授 後 信

我が国における医療安全の取り組みの歴史的背景や当機構の医療事故情報収集等事業の内容を中心に、当機構で毎月発行している「医療安全情報」の九州大学病院における活用事例や、事業報告書の内容を受けて名称が類似していた薬剤の名称を製薬会社が変更した事例などが紹介されました。また、産科医療補償制度についても、無過失補償制度であることを説明し、事業開始以降、産科に関連する訴訟件数が減少していることなどを紹介しました。



(4) “An International Campaign to Reduce Unnecessary and Harmful Care”

「不必要かつ有害な医療を減らす国際的なキャンペーンについて」

Choosing Wisely Canada 理事長 Wendy Levinson 氏

2012年に米国で始まったChoosing Wiselyキャンペーン（必要性が低くハイリスクな検査や治療を行わないことで医療の無駄を省こうという運動）は、現在ではカナダを含めて17カ国に広がっています。Choosing Wiselyキャンペーンの原則として、あくまでも最新の根拠に基づいて患者との対話の中で選択することが強調されており、単に「無駄を省く」という言葉から受ける印象とは異なる運動であるとのことでした。

Choosing Wiselyキャンペーンで推奨する患者向けの質問事項は、「この検査や治療は本当に私に必要なのか?」「リスクや副作用があるのか?」「より簡単で安全な別の方法があるのか?」「もしその検査や治療を行わなかったらどうなるのか?」「その検査や治療にはいくらかかるのか、また保険が適用されるか?」であり、患者満足度や「〇〇の実施率」とは違う観点の「よりよい医療」の考え方として、今後日本でも広まっていくのではないかと思います。

※Choosing Wiselyキャンペーンの動画はYoutubeに公開されています。



(5) “International Frontiers in Tracking Variation in Health Care”

「医療におけるばらつきを追究する国際的フロンティア」

ダートマス研究所医療政策および臨床研究学教授 David Goodman氏

1973年のJohn E. Wennberg, Alan Gittelsohnの論文に始まる「医療におけるばらつきの研究」が紹介されました。ダートマス研究所で始まった医療の質を可視化し地域別に比較するいわゆる”Dartmouth Atlas”の話だけでなく、他の国や地域での同様の取り組みを紹介し、データを用いたばらつきの可視化とばらつきの原因の検証が医療の質・安全の向上につながることを、同時に質・安全の向上に関する取り組みの効果検証にもなることが示されました。一方で、こうした取り組みや研究の進捗は世界各国で差があり、それは政府や保険者がデータを公開していないことが原因の一つであることを指摘しました。こうした研究の重要性が広く伝わり、適切な情報公開がなされることが今後求められるかもしれません。実際にデータとして示されると、基本的なことを徹底することの難しさと重要性を改めて感じます。



(6) “Safer Healthcare: Strategies for the Real World”

「より安全な医療：現実社会におけるストラテジー」

オックスフォード大学心理学教授 Charles Vincent氏

フランス・保健規制高等委員会 (Haute Autorite de Sante: HAS) Rene Amalberti氏

医療の質・安全の向上に関するこれまでの取り組みの大半が急性期医療を対象としたものであったり、しばしば理想的すぎて実現が難しく、期待されたほどの効果を得られていなかったりすることから、患者の視点で考えること、よい医療を進める取り組みとリスクを減らす取り組みを車の両輪として進めることが講演されました。最近出版された演者お二人の共著”Safer Healthcare: Strategies for the Real World”（英文）は、PDF版と電子書籍版が無料で公開されています。



Charles Vincent 氏



Rene Amalberti 氏

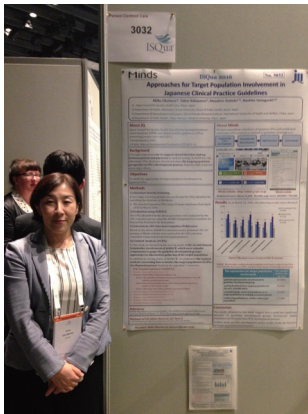
3. 評価機構からの講演・演題発表

当機構からの発表は次ページのとおりです。それぞれの発表に対して各国参加者からの質問があり、関心の高さがうかがえました。また、EBM医療情報部・奥村課長のポスター発表“Approaches for Target Population Involvement in Japanese Clinical Practice Guidelines（日本の診療ガイドラインにおける患者参加の取り組み）”が優秀ポスター賞の一つに選ばれ、閉会式において表彰されました。

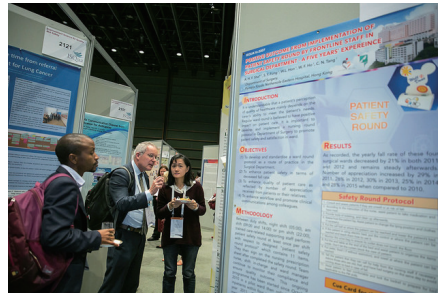
当機構から発表した演題一覧（順不同）

No.	タイトル	演者（形式）
1	Japan's Quality Improvement Body – Its Achievement and Future Role in Public Healthcare Service as Private Sector Entity 日本における質改善の土台 - 民間団体としての公的医療サービスにおける実績と今後の役割	執行理事 後 信 (基調講演)
2	Measuring Quality of Health Services in the Context of Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標に沿った医療サービスの質測定 — Japan's experience 日本の状況について	執行理事 後 信 (WHOセッション)
3	No-fault Based Compensation /Peer Review System for Quality/ Safety Improvement and Conflict Resolution 医療の質・安全の向上と紛争解決の手段としての無過失補償・相互評価制度 — Report from Cause Analysis Committee — 原因分析委員会からの報告 — Recurrence Prevention — 再発防止の取り組み	執行理事 後 信 (座長) (JQセッション) 愛育病院院長 岡井 崇先生 宮崎大学学長 池ノ上 克先生
4	Visualization and Collaboration for Health System Reforming 医療制度改革に向けた可視化と協働	執行理事 今中 雄一 (プレカンファレンス)
5	Implementing Integrated People Centred Health Services: Engaging Providers and Patients with the WHO Framework 患者を中心とした包括的な医療制度の実現：医療者と患者を結ぶWHO のネットワーク Towards IPCHS: integrating people-centred approaches in Japan 患者中心の包括的な医療制度に向けて：日本での取り組み	執行理事 今中 雄一 (WHOセッション)
6	Reconstructing National/Regional Healthcare Systems in Countries with Active Aging 高齢化する国における国・地域の医療提供制度改革 Community-based Comprehensive Care System - a form of Healthcare System Reform in Japan 地域ベースの複合的ケアシステム - 日本における医療提供制度改革 の方向	執行理事 今中 雄一 (座長) (JQセッション)

No.	タイトル	演者（形式）
7	Not Another Mandatory Training Please! : Designing Education to Change Quality Outcomes これ以上研修義務を増やさないでください！ 質のアウトカムを変化させる教育デザイン Intrinsic motivation of professionals 専門職の内在的モチベーション	執行理事 今中 雄一 (ISQuaセッション)
8	Integrated Evidence-Based Approaches to Healthcare Quality and Safety Improvement 医療の質・安全の向上に向けた根拠に基づく包括的アプローチ Think about the future of medical practice- a small step of ICT for EBM 医療提供の将来を考える – EBMのためのICTの第一歩	執行理事 山口 直人 (座長) (JQセッション) 執行理事 今中 雄一
9	Introduction to Japan Obstetric Compensation System for Cerebral Palsy 日本における産科医療補償制度の紹介	執行理事 鈴木 英明 (ランチタイム シンポジウム)
10	Effective use of accreditation from the experience of three countries 病院機能評価の効果的な活用：三か国の経験から	執行理事 橋本 廸生、 執行理事 長谷川 友紀 (JQセッション)
11	Utilization of Medical Safety Information in Medical Institutions 医療機関における医療安全情報の活用	医療事故防止 事業部 坂口 美佐 (ポスター)
12	Development of a web-based Tool to Support the Creation of Clinical Practice Guidelines in High Quality 質の高い診療ガイドライン作成を支援するwebベースツールの開発	EBM医療情報部 客員研究員 佐藤 康人 (ポスター)
13	Approaches for Target Population Involvement in Japanese Clinical Practice Guidelines 日本の診療ガイドラインにおける患者参加の取り組み	EBM医療情報部 奥村 晃子 (ポスター)
14	Application of Electric Health Record Data to Quality Indicator (QI); Trial and Validation for Design and Development of the Standardized Automatic Modules 電子カルテデータを用いた臨床指標 (QI) 算出：標準的自動算出モジュールの開発と検証	総務部国際課 横山 玲 (口演5分)
15	The Differences of Strengths Between Subgroups of Acute Care Hospitals in Accreditation Survey Result in Japan 日本における急性期病院間の強みの差：病院第三者評価の結果から	総務部国際課 山野 友子 (口演15分)



EBM・奥村課長ポスター発表



ポスターセッション



ディスカッション風景



セッション風景



ネットワーキング・レセプション

4. 2017年国際学術総会について

本年の学術総会は、2017年10月1日(日)～4日(水)にロンドン中心部のQEIIカンファレンスセンターで開催されます。メインテーマは"Learning at the System Level to Improve Healthcare Quality and Safety"です。演題登録の受付はすでに開始されており、企画セッションは1月31日、一般演題は2月15日締切となっています。多くの皆様とロンドンでお会いできることを楽しみにしています。

○第34回ISQua国際学術総会 概要(英文):

<http://www.isqua.org/Events/london-2017>

○第34回ISQua国際学術総会 演題登録(英文):

<http://www.isqua.org/Events/london-2017/call-for-papers-london>



2017年第34回ISQua国際学術総会 バナー

※本稿に掲載した写真の一部はISQuaの了解を得て転載させていただいています。

病院機能評価事業の新サイトがオープンしました（評価事業推進部）

2016年10月中旬に、病院機能評価事業の新しいホームページをオープンしました。

評価事業の3本の柱「評価」「支援」「教育」を前面に出し、事業目的に沿ったつくりをしました。ユーザーがよりアクセスしやすくわかりやすい構成にし、必要な情報をすぐに入手いただけるようになりました。スマートフォンやタブレットにも対応させ、いつでも、どこでもアクセスいただけます。

「病院機能評価ってなんだろう?」「評価項目の内容を知りたい!」「医療クオリティ マネージャー (QM) とは?」「他病院の質改善事例を知りたい!」など、病院機能評価に関する情報に加え、医療の質向上に役立つ様々な情報を掲載しております。その他、病院機能評価受審等に関する情報をタイムリーに配信します。今後の病院の質改善活動にお役立てください。

ぜひ病院機能評価事業の新サイトをご覧ください。

<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/>

JQ 病院機能評価事業

検索



「産科医療補償制度 審査委員会」が第100回を迎えました（産科医療補償制度運営部）

産科医療補償制度では、補償申請された事案について補償対象に該当するかどうかを審査する「審査委員会」を開催しており、2016年11月に第100回を迎えました。第1回を2009年6月に開催してからこれまでに2,453件を審査し、1,866件の児が補償対象と認定されました。

審査委員会では、専用診断書や診療録、児の頭部画像、動画などを用い、産科、小児科、リハビリテーション科の専門医および法律家の審査委員により、厳格かつ公正に、補償約款に照らして、医学的な判断に基づいた審査が行われています。

審査委員会は、診断医を始めとする制度関係者の皆様のご支援のおかげをもちまして、100回を迎えることができました。厚くお礼申し上げます。



第100回審査委員会 審議の様子

10/18 (火) ISQua企画セッション開催報告 (EBM医療情報部)

ISQua国際学術総会において、当機構の山口理事が座長を務めた企画セッションが開催され、演者の先生方から次のテーマでご講演いただきました(P.8参照)。

- Holger Schünemann 先生 - GRADEを用いた医療のPerformance Measures
- Francoise Cluzeau 先生 - NICE Quality Standardsによる医療の質の改善
- 森 臨太郎 先生 - 医療の質改善のための教育、臨床現場と診療ガイドラインの統合
- 今中 雄一 理事 - EBMの実践における病院の情報環境の重要性

演者から参加者に対し、「エビデンスに基づかないで、何を根拠に医療の質を向上させる取り組みをするのか。エビデンスに基づいた診療ガイドラインは信頼できる根拠のひとつとなる」という重要なメッセージが送られました。

今後、医療の質・安全に診療ガイドラインがどのように活用できるか、引き続き検討を進め、皆様に情報提供できるよう努めます。



医療安全情報および年報の公表について (医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業は、11月15日に医療安全情報No.120「薬剤名の表示がない注射器に入った薬剤の誤投与」、12月15日にNo.121「経鼻栄養チューブの誤挿入」を公表しました。

詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.med-safe.jp/>

また、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業は、11月8日に平成27年年報を公表しました。本年報では、7つのテーマの分析を行いました。

(分析テーマの一部)

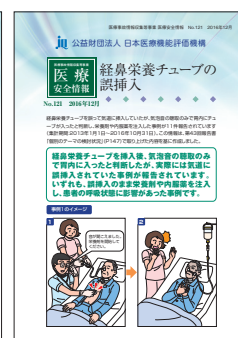
○ハイリスク薬に関する事例 - 免疫抑制剤に関する事例 -

○腎機能が低下した患者に関する事例

詳細は、ホームページをご覧ください。 <http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/>



No.120 (1ページ目)



No.121 (1ページ目)

「第6回医療政策勉強会」を開催しました (総務部)

11月29日に「医療・ケアにおけるコミュニケーションを考える」をテーマに、聖マリアンナ医科大学小児科学教室名誉教授の堀内勁先生にご講演いただきました。根拠に基づく医療(EBM)や経済学的視点での効率化だけでなく、患者さんの生活の物語や、他者との交流によって生じる心の動きを大切に、ケアを行っていくことの重要性を新生児医療の経験を通じてお話されました。



Information

各イベントの申し込み方法、詳細については当機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<http://www.jcqhch.or.jp/> 日本医療機能評価機構▶ホーム▶イベント情報

1月～3月

1月	20日	クオリティ マネジメントのためのDPCマネジメントセミナー
	27・28日	第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー(3・4日目)
	28日	Mindsフォーラム2017
2月	5日	第8回業務工程図・医療事故情報収集等事業研修会
	18日	第14回 診療ガイドライン作成ワークショップ(基礎コース)
	28日	第7回医療政策勉強会
3月	7日	第4回病院機能改善支援セミナー
	10・11日	(PSP)院内自殺の予防と事後対応のための研修会
	18日	(PSP)患者安全推進全体フォーラム

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

■平成28年度 第4回 病院機能改善支援セミナー

機能種別版評価項目<3rdG:Ver.1.1>について、サーベイヤーが詳しく解説します。加えて、受審病院体験談と題して、認定病院に受審までの取り組みをご講演いただきます。これから受審をお考えの病院の皆様、あるいは認定更新を迎えられる病院の皆様は、ぜひご活用ください。

- [日 時] 2017年3月7日(火) 10:30～15:30
[会 場] 日本医師会館大講堂(東京都文京区)
[対 象] 医療者・病院関係者
[定 員] 先着350名(定員になり次第締め切ります)
[参加費] 1名 5,000円
[申込方法] 当機構ホームページ「イベント情報」欄よりお申し込みください。
セミナー終了後、受審病院説明会(無料)を予定しています。ぜひご参加ください。
[問合せ] 評価事業推進部病院支援課
(03-5217-2326)

編集後記

今号ではISQua国際学術総会の開催について特集をしました。日本における医療の質向上の取り組みを国内外に発信し、活発な議論が行われました。その他の学会の写真・抄録はISQua Webでもご覧いただけます。

本年もより役立つ情報の発信に努めてまいります。引き続きのご愛読よろしくお願い申し上げます。

■患者安全推進ジャーナルのご案内

当機構の認定病院患者安全推進協議会が発行している機関誌です。No.46が発行されました。今回の特集は「医療安全管理者の仕事と環境づくり」です。

●会員病院(1,000円+税)

会員病院には毎月3冊を無料でお送りしています。追加購入をご希望の場合は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。会員価格となります。

●会員外病院(3,000円+税)

当機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。



■平成28年度 患者安全推進全体フォーラム

認定病院患者安全推進協議会では、下記要領にて「患者安全推進全体フォーラム」を開催します。今回のテーマは「リーダーシップとチームマネジメント」で、基調講演には、青山 侑氏(元・東京都副知事、明治大学ガバナンス研究科特任教授)をお迎えします。詳しいプログラムなどは、協議会ホームページ<https://www.psp-jq.jcqhch.or.jp/>をご覧ください。

- [日 時] 2017年3月18日(土) 10:00～16:40
[会 場] 東京ビッグサイト 国際会議場(東京都江東区)
[対 象] 医療機関にご所属の方
[定 員] 800名
[参加費] 会員病院 無料、
会員病院以外 1名 5,000円
[申込方法] 協議会ホームページよりお申し込みください。(URLは上記参照)
[問合せ] 評価事業推進部認定病院患者安全推進課
(03-5217-2326)

評価機構

NEWS LETTER

2017年1月1日発行
(奇数月1日発行)

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構(略称：評価機構)
発行責任者：河北 博文
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル
TEL：03-5217-2320(代) / (編集：総務部情報企画課) 03-5217-2335
<http://www.jcqhch.or.jp/> e-mail: info@jcqhch.or.jp
本誌掲載記事の無断転載を禁じます